



# 消費生活センターです

はまると怖い！催眠商法にご注意  
11月の間にか最後の貯蓄が！

## 相談事例

健康講座に参加すると砂糖やしょゆなどの食品や日用品をもらえる、という広告が自宅のポストに入っていた。会場は近くの空き店舗であったため、友達を誘って出掛けた。販売業者は話が面白く、親切にしてくれた。講座終了後の展示会で、身体にいいという商品を購入した。

会場に行くことが楽しみになって何度か通い、勧められるままに商品を買っていると、合計約170万円になった。家族に話すとやめるよう言われたが、今からでも商品を返すことはできるか。(80歳代 女性)



「会場に通い続けるためには勧められた商品を買わなければならない」という雰囲気になっていることから催眠商法といえます。

## 対策

クーリング・オフ期間であれば取り消すことができる場合があります。トラブルに遭わないためには、無料で商品がもらえるからといって、安易に会場に近づかないことが大切です。

勧誘されても、最後の大切な資金を取り崩してまで購入する必要があるかをよく考えて、不要な商品はきっぱり断りましょう。

## 問い合わせ先

市消費生活センター  
(合志庁舎2階 総務課内)  
☎(248)5442  
平日 午前10時〜午後4時  
相談受付時間



# 素敵な人生 素敵なパートナー



男女共同参画推進懇話会 委員 松本 たくし

市が取り組む男女共同参画社会づくりが、やっとここまで来たかとうれしくなります。

私が就職した四十数年前の職場では、女性は簡単な事務とお茶くみ要員と考えられていました。その後平成に入り、職場の話し合いで、女性職員の仕事時間内のお茶くみやめることになりました。

朝夕のお茶の準備は、当時の男性課長が「私からお茶当番を始めます。交代で年齢の高い人からやりましょう」と提案しました。また、来客には各自でお茶を出す決め、課長も自らお茶を出しました。

お客は驚き恐縮しながらも、大いに和み、女性たちも仕事のプロとして対等に認められたと感謝し、職場のみんなの笑顔も増えました。そういった体験は、中学時代に

もありました。当時、運動会の行進は男女別で、身長の高い人から整列し、みんな無表情で一つの壁のように歩いていました。小柄な私は下級生と並ばされて最後尾。嫌な上に親が見たら辛いだろうと悲しくなりました。

ところが、私の子どもの運動会では、男女混合で名簿順に並び、クラスの仲間と一緒に進行します。一人一人の顔が見分けられ、屈託のない笑顔が生き生きと輝いていました。人を性や見かけで区別せず、一人一人の個性を認め合うことがいかに人を勇気付け元気にするか、目の当たりにしたうれしい瞬間でした。

これから男女共同参画を推進する上での課題は、女性の収入・待遇面での格差解消とともに、結婚や出産が女性の個人的なマイナスのキャリアとされない職場環境づくりが必要だと考えます。

若者が家庭を持ち、子育てがしやすいまち。合志市がそうなるよう、私も微力ながら努力したいと考えています。

# よみ人こころし

## 西合志川柳会 安藤玄白整理

まあまあと拍手抑えてご登壇 玄白  
温かい拍手がミスを吹っ飛ばし 優一  
リハビリに孫が拍手の二歩三歩 矩子  
祝福の拍手に誓い合う二人 範子  
臍に落ちぬ誰か煽っている拍手 りん子  
休刊日朝から何か抜けたよう 長山  
新聞で今日の運勢確かめる 岳人  
新聞は真っ先に見えるテレビ欄 ミヨ  
新聞が来ない日僕は休肝日 千里  
ゴキブリを見れば丸める新聞紙 呑気イ  
夫婦してあれこれ無いと探し物 民子  
幸せは家の茶の間で探し当て 良輔

## 肥後狂句西寿えのき会 中原松雪運

こっそり願掛けしよる親心 えり子  
てんでこ舞い、嫁が病気で寝とるけん チサト  
いい気持やっぱお前の膝枕 キー坊  
淑女の集い、内緒の話しばあっかり 二日坊  
けんもほろろ昔の恩は打ち忘れ 桂子  
音信不通お悔やみ欄で見つけたし 和恵  
運動不足八頭身もビヤ樽に 夢三  
あきらめてもう婚活は止められた 山行  
甘さ甘さ世間知らずも程がある ひまわり  
まあだ十年 狂句界では前頭 松雪

## 合志 短歌・俳句の会

木犀の花こぼれ散り金色の小道に遊ぶ 幼と夫と 田上 保子  
秋空の澄みたる青のはてしなく孫の祝の乾杯あげり 農 博明  
小雨降る玄海灘は波静かさざえのつば 焼き湯気立ち始む 安藤 育子  
羽ばたきて川に下り立つついでいさぎのわれをおそれる気配も見せず 才藤 葉子  
四季とわず何げなく聞く三時半子らの見まもり帰路の安心 福元 秀子  
うれしきは老いて学びし脳トレで知識得しこと友を得し事 村井 都子  
水害の心の傷もいぬ間に秋台風の又生まれけり 藤好クニ子  
漱石の思い出たどりみかん狩り景色に魅せられしばしたたずむ 安藤 育子  
百舌鳥鳴くや声はすれども姿見ずお前はいつも何処から見てる 石井満喜子  
夕暮れの鴉の高音や刈終る 博明  
健脚も老には勝てず鱗雲 百合子  
アンテナの高処に百舌の鋭やかな 葉子  
鴉鳴けり夫の一徹変わりなし 都子  
雨戸開け手をとめて待つ百舌の声 秀子  
百舌鳥が来て難聴我に時を告げ 満喜子  
静まりし阿蘇の山脈すすきゆれ 育子  
秋蝶の風に流されもつれ行く クニ子  
鴉高音父の形見の羽織干す 子文  
草繁る君なき庭に百舌の声 保子



# 人権よもやま話

冬号



人権擁護委員 池頭 由美子 (栄温泉団地)

私の父は91歳になりました。熊本地震で被災し、実家は12月に解体されました。前震後すぐに私の家に連れて来て、3カ月間一緒に生活していました。畑で採った野菜料理を「おいしい、おいしい」と食べてくれて、少しでも親孝行ができました。

7月下旬、父はやつと仮設住宅に入れることになり、避難所に入った兄夫婦と生活するために戻っていききました。ところが、10月中旬に仮設住宅で倒れ、今は入院生活を送っています。弱く涙もろくなっている父に、「あと2年くらいいたら新しい家が出るから元気でいてね」と言う、「あなたの2年と俺の2年は違う。生きるのがきつい」と言います。父には酷な言葉

かもしれないが、「私のために頑張つて、長生きして」と父の手を握り締める父も握り返してくれません。けれども本当に弱々しくなっています。

ていました。

私は末っ子だったこともあり、幼いころから特にかわいがってもらったように思います。父はともて器用で物作りが大好きでした。今は指がうまく動かないため、食事のときなど茶碗もうまく握れません。「指が痛いね」とさすりながら見る父の手はいつもばんばんに腫れて、その皮膚は長い苦労の年月を感じます。その父の手でいえば、父が親指で私が小指です。親指は他の指と少し離れていますが、親指なしでは物を簡単に持ったり、書いたりすることはできません。親指は短く、スタイルも悪く、不自由です。でも、小指にとつては親指があるから何でもでき、耐えられます。

私も最近孫が3人になりましたが、やはり今でも、最後にはどんなことがあっても「守ってくれる親指」である偉大な父がいてくれるのが支えです。今後も人権擁護委員として、優しく温かい社会をつくるための活動を二歩一歩行なっていくように思います。ちなみに父の名前は「まもる」です。